

## 第2回「地域フォーラム」概要

開催テーマ 「誰もが健やかに暮らせる地域づくり」

日時 平成30年6月23日(土) 13時30分～15時30分

会場 桜井市立図書館

取組説明	荒井奈良県知事
	<p>ベッドタウンとして発展してきた奈良県では、人口減少や高齢化が急速に進んでいます。このような状況の中、どのような人口構造になっても健康に暮らすことを目標に、奈良県では健康寿命日本一を目指して、健康、医療、介護分野の計画を連動させた取組を推進しています。</p> <p>健康分野では、バランスの良い食事、適度な運動、適切な社会行動の3種類の健康行動を促進しています。バランスの良い食事に関する取組では、学校・病院・介護施設等の給食等で県産食材を活用した「美味しい食事」を提供する仕組みの構築を目指しています。適度な運動に関する取組では、県内全市町村で総合型地域スポーツクラブが設置されました。また、まほろば健康パークの機能強化、馬見丘陵公園の賑わい創出等、運動環境の整備を推進しています。適切な社会活動に関する取組では、健康ステーションを設置し、おでかけ健康法の普及に努めています。</p> <p>医療・介護分野では、医療提供体制の整備を進めており、がん死亡率全国一低い県を目指した取組、救急搬送受入体制の改善、県立病院の再編整備、地域包括ケアシステムの構築等に取り組んでいます。</p> <p>今後も健康に、幸せに暮らすという大きな目標に向かって、「誰もが健やかに暮らせる地域づくり」を県内の市町村と協働しながら積極的に行っていきたいと考えています。</p>

取組説明	松井桜井市長
	<p>桜井市では、約6割の人が自宅での介護を望んでいるにも関わらず、病院で亡くなる人が約7割に及び、希望通り自宅で最期まで過ごせる現状ではありません。</p> <p>このような現状を受け、桜井市では地域包括ケアシステムの構築に取り組んでおり、その第一弾として、平成28年8月に、保健福祉センター「陽だまり」をオープンしました。その他にも地域ケア会議、地域見守りネットワーク事業、認知症カフェ等の取組を実施しています。</p>

取組説明	高見宇陀市長
	<p>宇陀市では、超高齢化社会の時代を迎えており、この時代に向けて地域包括ケアシステムを推進しています。</p> <p>地域医療体制を充実させるため、宇陀市立病院が入退院の支援、在宅療養者等への支援、在宅療養者の病状急変時への対応、患者が望む場所での看取りの支援の四つの役割を担っています。</p> <p>また、介護予防の取組では、「いきいき百歳体操」を推進しています。</p>

今後も、市民自らが参画して進める高齢者に優しいまちづくりに取り組んでいきます。

取組説明 芝田曾爾村長

曾爾村は、将来にわたり光り輝くオンリーワンの村を目指して、観光とスポーツ、レクリエーションを活かした健康づくり等に取り組んでいます。

健康づくりの取組として、食生活改善推進員の方々に、子どもの食育教室や男性の料理教室、介護予防等、正しい食生活の普及に取り組んでいただいています。

また、「いきいき百歳体操」を推進しており、徐々に参加者が増えています。

今後は、村外の方にも曾爾村の大自然の中で心身の健康づくりに参加いただきたいと考えています。

取組説明 伊藤御杖村長

御杖村は、三つの「杖」をテーマに村づくりに取り組んでおり、その一つの「杖」が、保健、福祉、医療関係です。

医療関係では、村営の国民健康保険診療所を開設しており、多くの村民の方々に利用いただいています。

健康づくりと保健関係では、国民健康保健事業、介護予防事業、スポーツ・レクリエーションを推進しています。

福祉関係では、介護予防と介護給付の二つを事業の柱として位置づけて取り組んでいます。

地域の「杖」で支える村民主体の元気な村づくりを目指していきます。

コメント 荒井奈良県知事

医療や福祉を考えていくうえで、地域に拠点をつくるということも大切ですが、これらの拠点をつなぐネットワークが必要になると思います。

また、災害時に対応できる拠点づくりも医療や介護の大切なポイントになると思います。

この地域では、高齢化社会における高齢者の社会活動、健康活動の良い見本があるように感じました。

<p>質疑応答①</p>	<p>都会から離れた地域の救急医療体制について、県や御杖村の考え方を教えてください。また、県のドクターヘリはどのような基準で飛行していますか。(御杖村在住者)</p>
<p>(伊藤御杖村村長)</p> <p>緊急を要する患者を優先して治療するためにも、救急搬送を含めた救急医療体制を住民の皆さんに知っていただく事が大切だと考えています。また、御杖村にも数回来ていただきましたが、奈良県のドクターヘリが発着できるような体制の整備も必要であると考えています。</p> <p>(荒井奈良県知事)</p> <p>御杖村にはこれまで6回程度飛んでいます。奈良県では、三重県、和歌山県とドクターヘリ運用の協定を結ぼうと考えています。地震等の災害が発生した場合を想定して、このような運用の検討もしたいと考えています。</p>	

<p>質疑応答②</p>	<p>宇陀市では、宇陀市立病院の受診科の充実等に取り組まれているようですが、それには奈良県の支援が不可欠だと思います。県ではどのような支援を考えていますか。(宇陀市在住者)</p>
<p>(高見宇陀市長)</p> <p>宇陀市立病院はリニューアルを行い、ハード面での整備が進んできていますが、一方で医師不足という課題があります。このような状況の中で、県の支援として、奈良県立医科大学から医師を派遣していただいています。</p> <p>今後は、このような医師が働きやすい環境の整備に向けた取組を進めていきたいと考えています。</p> <p>(荒井奈良県知事)</p> <p>まずは、宇陀市立病院で病院の役割分担を決めていく必要があるかと思います。県立医科大学での取組のほか、地域包括ケアの推進のために宇陀市が導入を進めている、ICTの活用による地域の医療と介護の連携の取組等に対して支援を行っています。</p>	

<p>質疑応答③</p>	<p>昨年、奈良県後期高齢者医療広域連合が巡回の体操教室を開催されました。それが大変良かったのですが、都会から離れた地域に対する巡回事業の取組を充実させてはいかがでしょうか。(曾爾村在住者)</p>
<p>(芝田曾爾村村長)</p> <p>曾爾村では、昨年度から、通所介護予防事業として「健康いきいき教室」を開催してい</p>	

ます。理学療法士等による健康チェックや運動指導、健康相談等を実施しており、今後も継続して実施していきたいと思います。

質疑応答③	地域包括ケアシステムの構築について、具体的な取組を教えてください。(桜井市在住者)
<p>(松井桜井市長)</p> <p>桜井市では、保健福祉センター「陽だまり」を拠点として、地域ケア会議の開催や、地域見守りネットワーク事業、認知症カフェ等の取組を実施しています。</p> <p>今後は、健康寿命の延伸も含めた総合的な取組を推進していきたいと思います。</p> <p>(荒井奈良県知事)</p> <p>地域包括ケアシステムの中では、訪問医師が有用であり、訪問医師の確保が重要です。訪問医師の代わりに訪問医療を行える医師が、訪問医師を支える後方病院にすることが望ましいと思います。</p> <p>身近に大病院がある地域ばかりではなく、病院完結型から地域完結型への移行が必要となる中で、病院間の連携、病院と地域の診療所の医師との連携も必要だと思います。本日皆さんの話をお聞きし、この地域でその連携が実現できる可能性があると感じました。</p>	

<当日回答できなかった質問に対する回答>

質問①	快適に健やかに暮すためには、生活インフラが重要だと思います。電気や電話、水道などは普及が進んでいますが、都市ガス、下水道はまだ不十分だと思います。特に盆地部においては、道路の再整備にあわせてこれらを充実させていく必要があると思います。行政としての促進策を講じる考えはありませんか。(桜井市在住者)
<p>生活インフラである下水道の整備については、「公共用水域の水質汚濁の防止」、「快適な生活環境の確保」を目指し、昭和 45 年度に流域下水道事業に着手しました。</p> <p>その後、奈良盆地を中心に事業着手する市町村が急増し、現在では県内 39 市町村のうち 30 市町村で下水道事業に着手し、平成 28 年度末の奈良県の下水道普及率は 79.3%で全国第 14 位となり全国平均を上回っています。</p> <p>しかしながら、下水道が普及していない地域もあることから、県は下水道以外の合併浄化槽なども含めた污水处理施設の整備を今後 10 年（平成 37 年度）で概成することを目指し、平成 28 年度に「奈良県污水处理構想」を策定しました。</p> <p>今後は、全ての県民が合併浄化槽や下水道などの污水处理施設を利用した快適な生活を送れるよう市町村と連携し、「奈良県污水处理構想」の実現に向け整備を進めていきます。</p>	